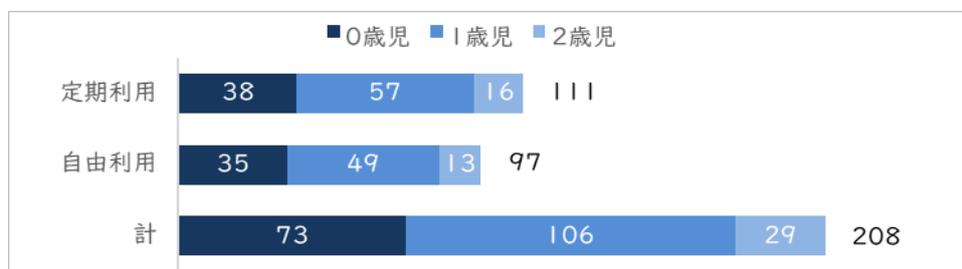


神戸市こども誰でも通園制度モデル事業 実施状況報告

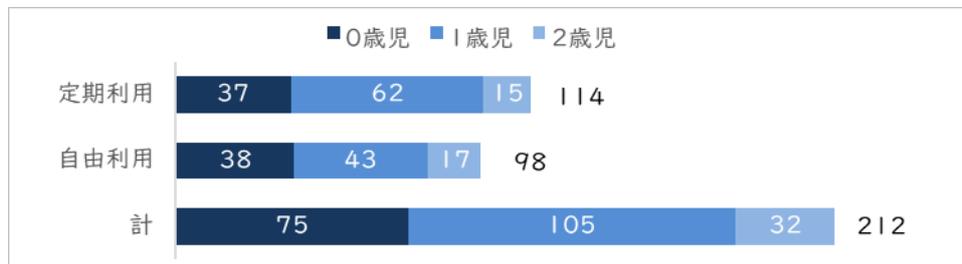
1. 利用人数（利用方式別・年齢別）

- ・モデル事業を実施する23施設で1,330人分（自由利用方式760人、定期利用方式570人）の利用定員を確保したが、210人程度（利用率：約16%程度、1日あたり0.5人程度）の利用に留まっている。
- ・利用率は、定期利用方式（20%）の方が自由利用方式（13%）より若干高い。
- ・年齢別では、0歳：35%、1歳：50%、2歳：15%となっている。

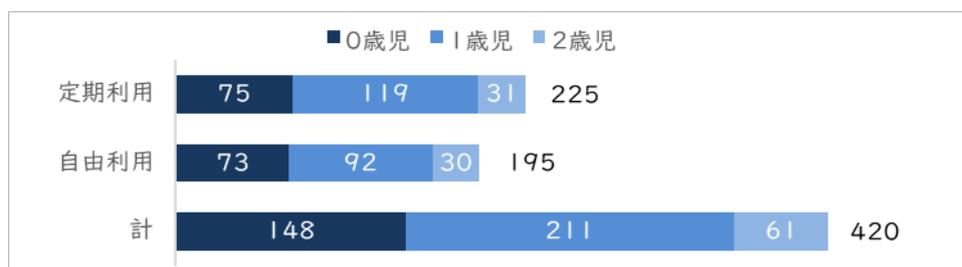
[6月]



[7月]



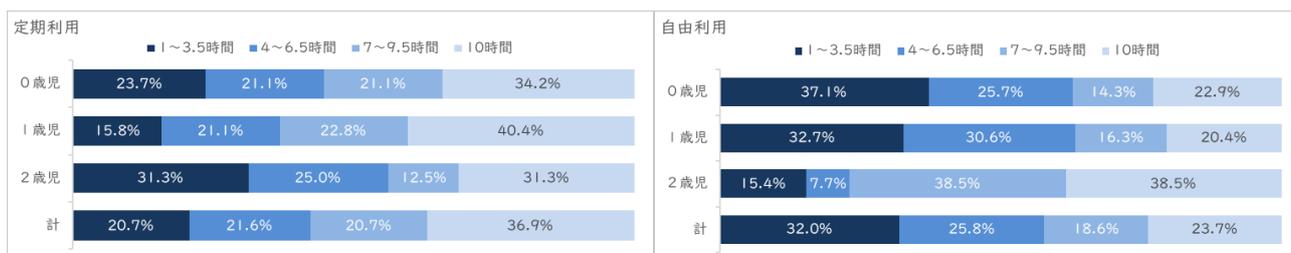
[6・7月合計]



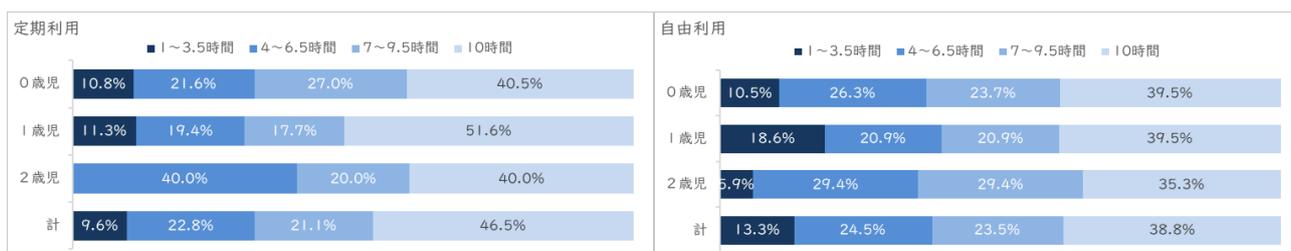
2. 1人あたり月の利用時間数

- ・利用可能時間の上限 10 時間を使い切っていない利用者が 6～7 割存在する。
- ・定期利用方式の方が、上限 10 時間を使い切る利用者が多い。
- ・利用時間は 6 月に比べて 7 月で伸びる傾向にある。

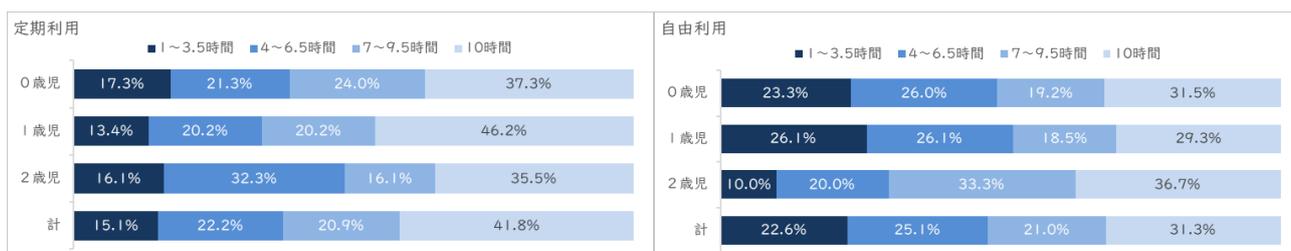
[6月]



[7月]



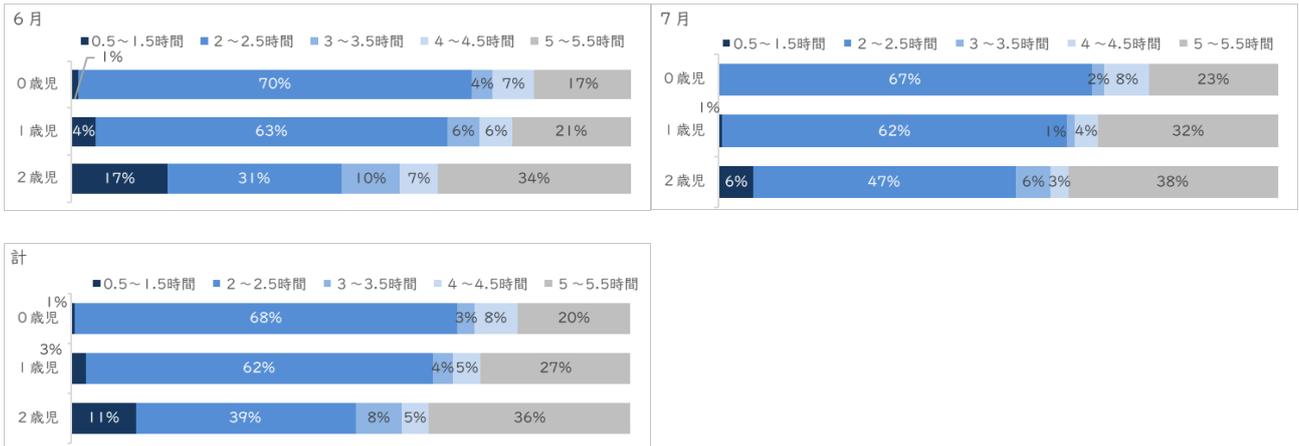
[6・7月合計]



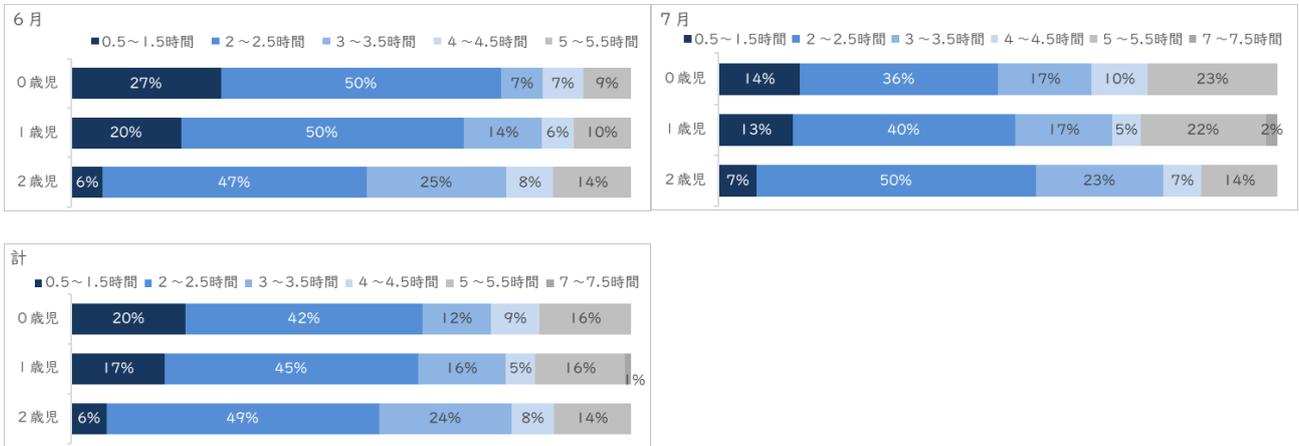
3. 1回あたり利用時間数

- ・ 定期利用は、実施施設が毎週 2～2.5 時間、隔週 5 時間と設定していることから、それにおさまる傾向にある。
- ・ 自由利用も 1 日あたり 2～2.5 時間の短時間の利用が多いが、5 時間超の利用も 2 割存在する。

[定期利用]



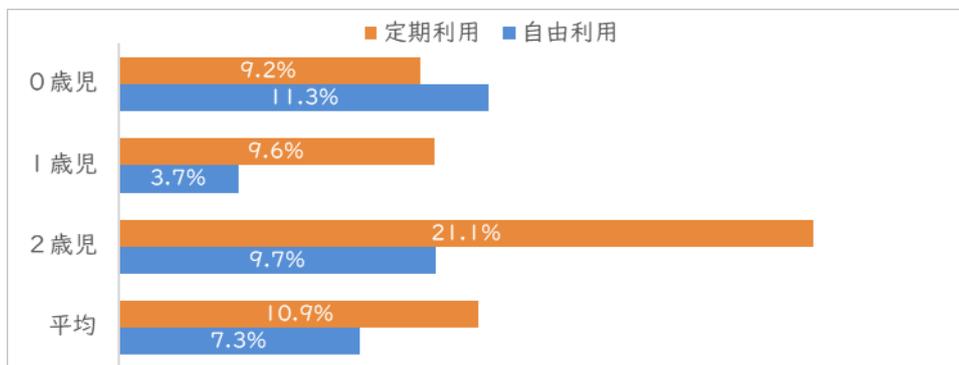
[自由利用]



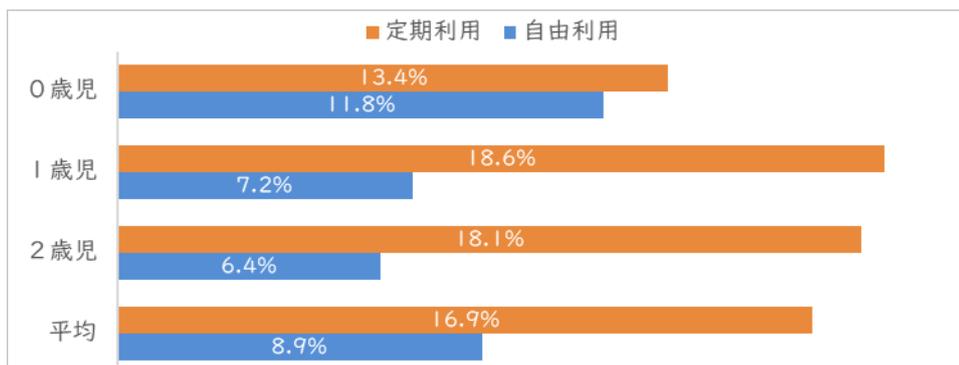
4. キャンセル率

- ・ 前日 17 時以降のキャンセル率は、定期利用が平均 14.1%、自由利用が平均 8.2%。
- ・ 定期利用の方が自由利用よりキャンセル率が高い傾向にある。

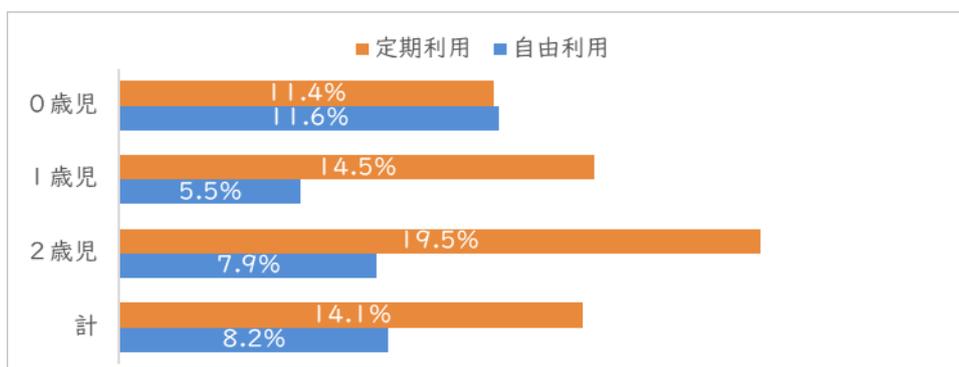
[6月]



[7月]

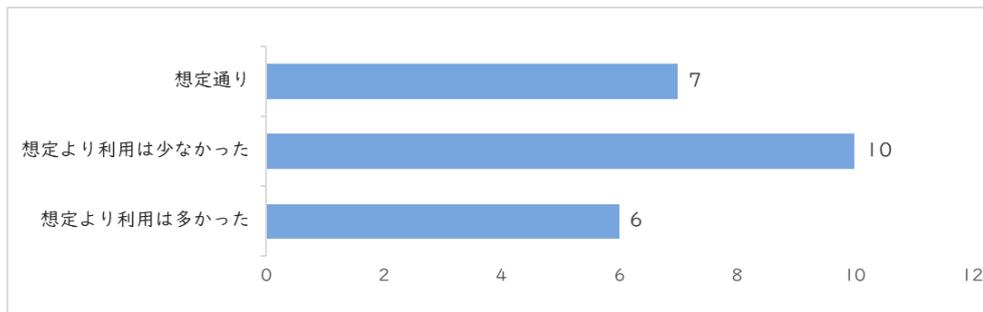


[6・7月合計]

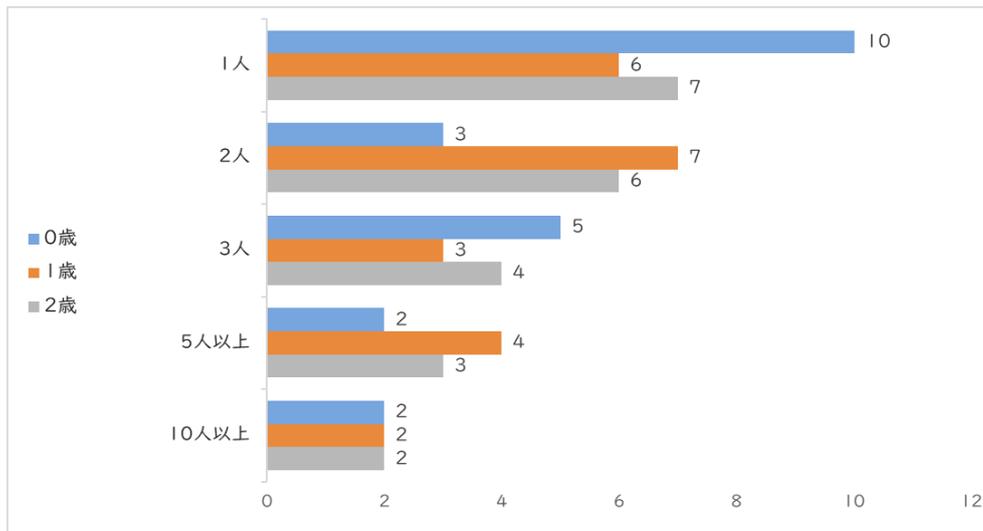


神戸市こども誰でも通園制度モデル事業 実施事業者向けアンケート結果

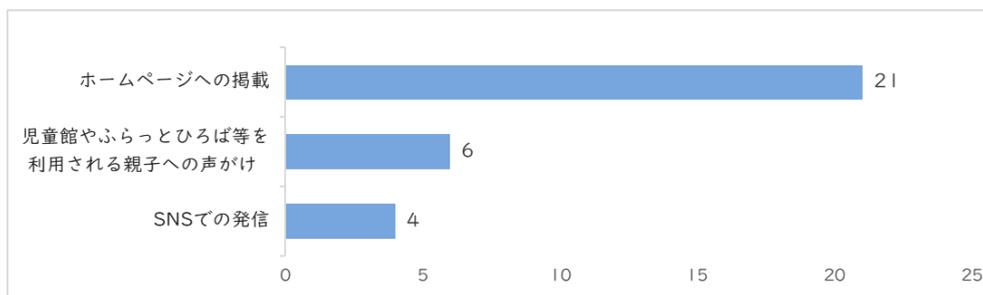
(1) 当初想定した利用（定員）と比較して、現在の利用状況をどのように受け止めておられますか？



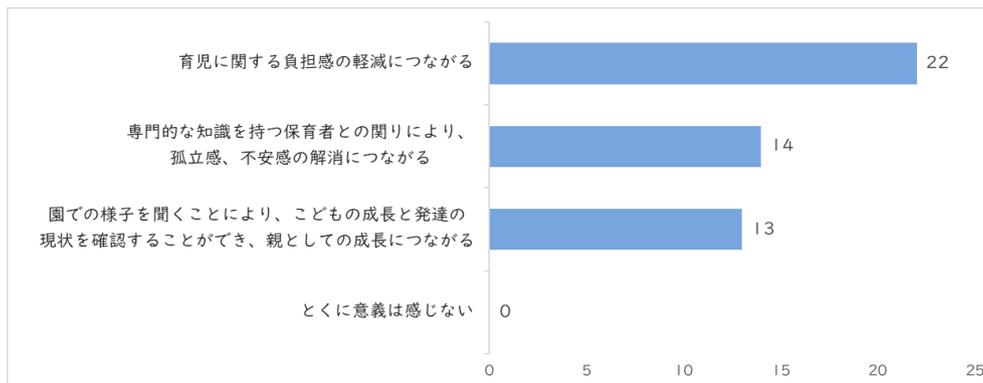
(2) どれ位の定員設定が適切と考えますか？



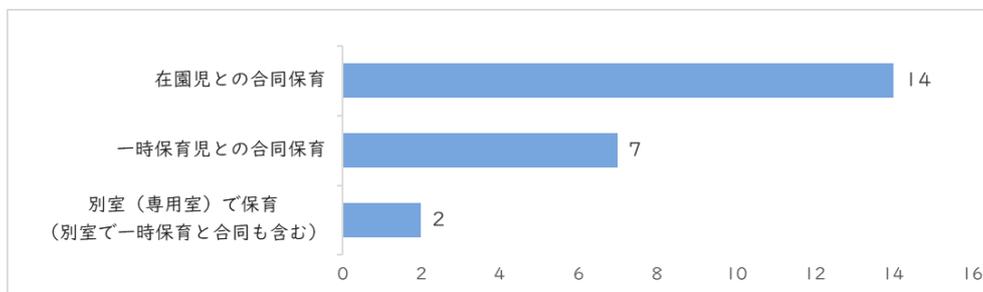
(3) 保護者への周知・PRのため、何をされていますか？



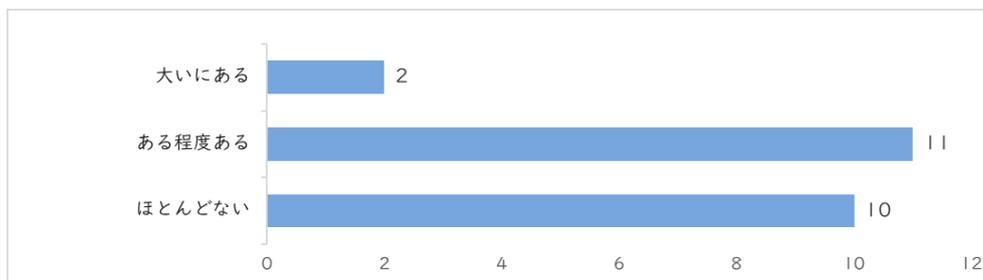
(4) 保護者はどのような意義を感じて利用されていると感じますか（複数回答可）



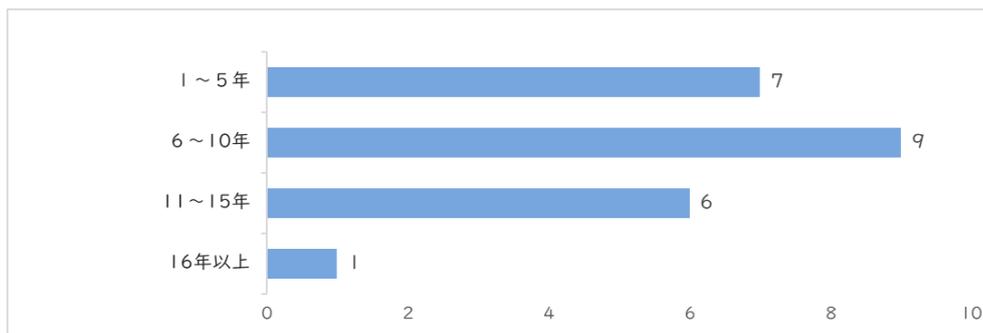
(5) どのように実施していますか？



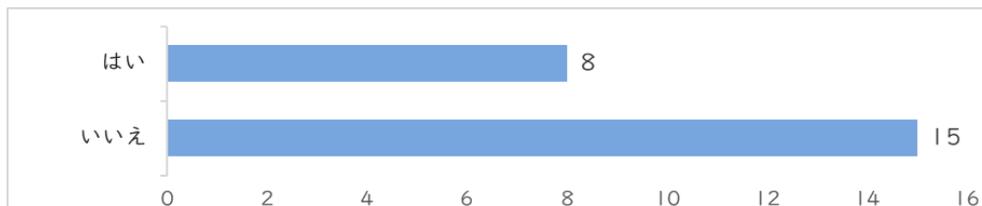
(6) 在園児への影響はどの程度ありますか？



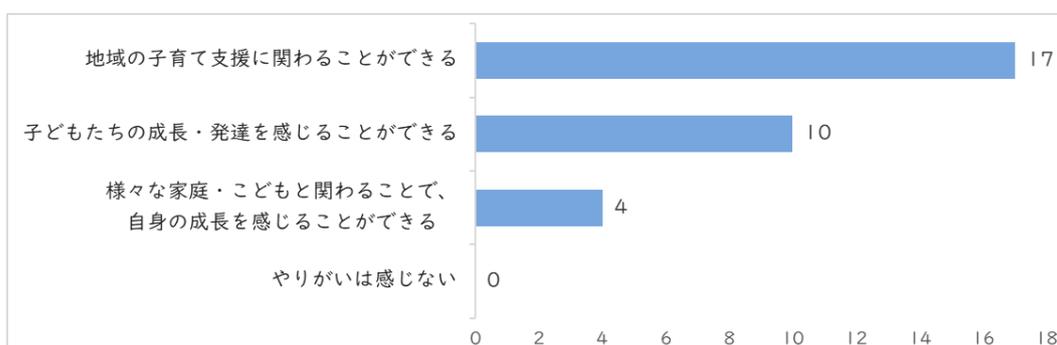
(8) 誰でも通園制度の担当保育士の経験年数は？（複数いる場合は平均）



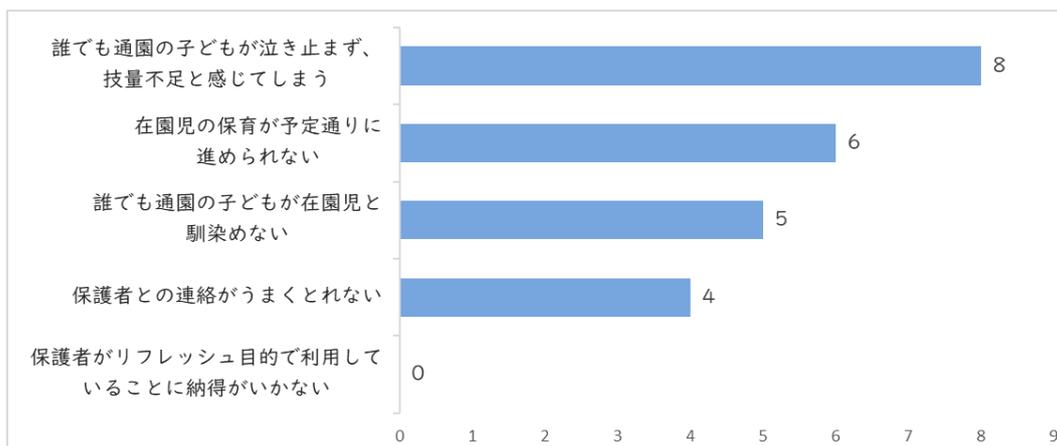
(9) 新たに保育士を採用しましたか？



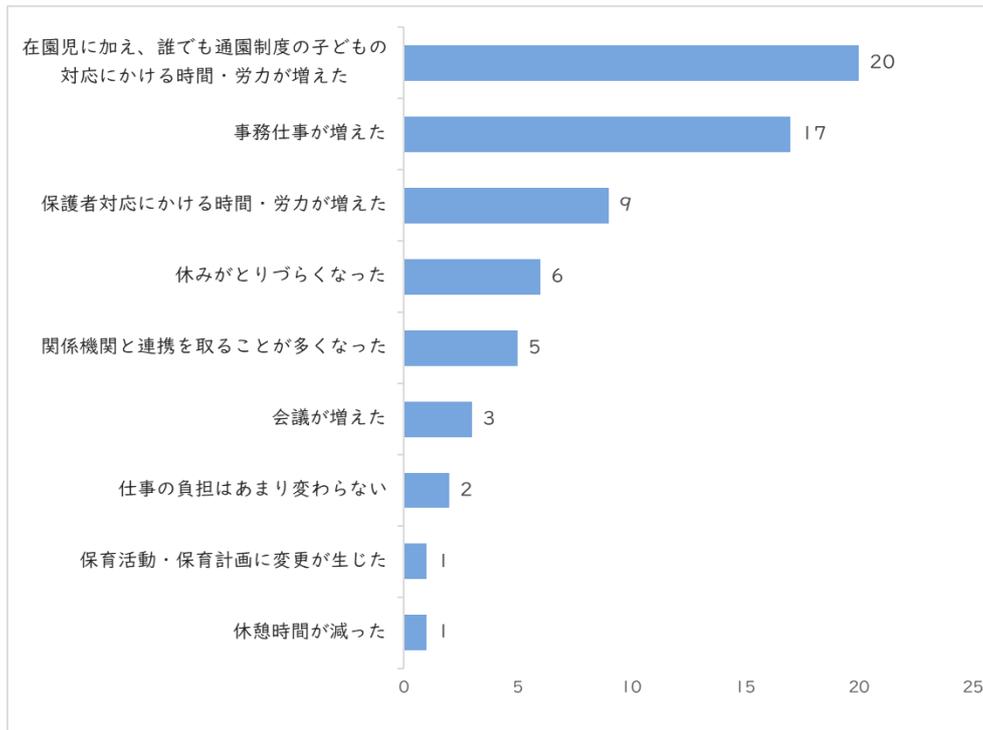
(10) 担当保育士はどのような点でやりがいを感じていますか（複数回答可）



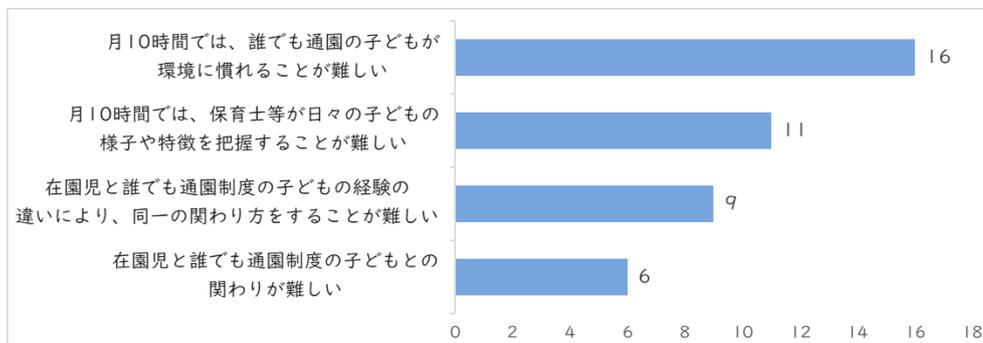
(11) 担当保育士はどのような点で困ったり、悩んだりしていると思いますか？（複数回答可）



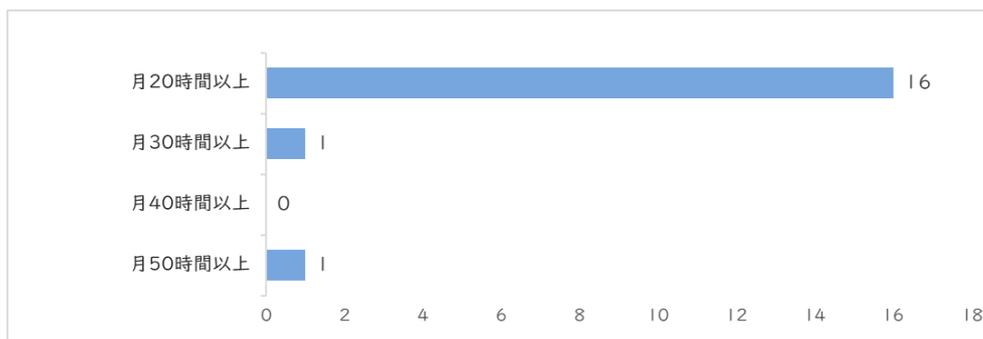
(12) 誰でも通園制度によりどのような仕事が増えましたか？（複数回答可）



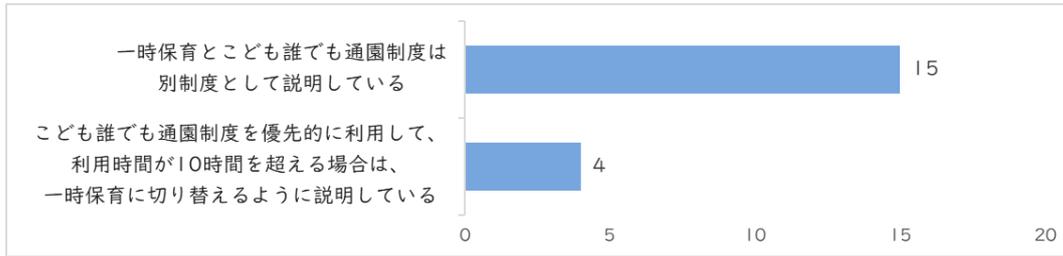
(13) 利用時間の上限（月10時間）についてどのように感じていますか？（複数回答可）



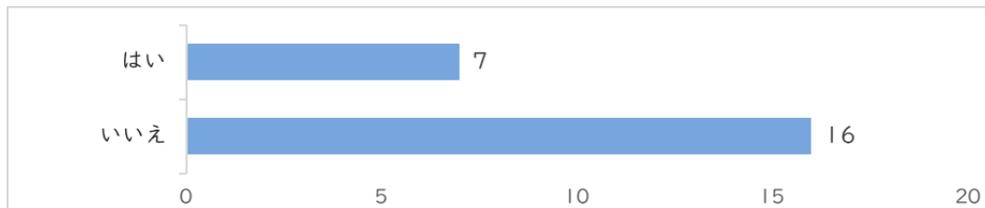
(14) 利用時間の上限はどれくらいが適当だと思いますか？



(15) 保護者に対して一時保育との違いをどのように説明していますか？



(16) 発達に遅れがあるなど、支援が必要な子どもを受け入れましたか？



(17) モデル事業の実施にあたって園独自に工夫されていることがありましたら記載してください。

(自由記述)

◆環境面について

- ・誰でも通園制度の子どもを受け入れる保育室を装飾し、入室しやすい雰囲気を作っている。また、会議などの際に、誰でも通園担当者以外にも誰でも通園制度の子どもに関する情報を共有するようにしている。
- ・ワンルームの保育室の中で、コーナー作りや、園外散歩と室内保育に分けて活動するなど、在園児と分ける工夫をしている。
- ・子どもが喜ぶような出席カードやシールなどの作成を行った。

◆体制面について

- ・連絡ツール内で、利用する子どものスケジュールを全職員に共有することで、「いつ・誰が登園するのか」を周知している。また、保育教諭だけでなく調理士もスケジュール確認が出来るので離乳食の準備や子どもの把握もスムーズにできている。

◆保護者対応について

- ・日常生活や育児について、保護者と話をする時間を少しでも持つように心がけた。悩みや育児方法等の相談を個々に対応できるように行った。
- ・申請手続きをWEBで行っている。また、利用時間を正確に把握するため、タイムレコーダーを導入

した。アレルギーのある子など、細心の注意を払い調理師との情報交換、口頭伝達などを徹底している。パート職員も多いため、誰通の子どもたちの写真を職員間で共有したり、当日預かる子どもたちの様子がわかるように「一時保育連絡票」にて共有できるようにしている。

- ・他の子育て世帯との横のつながりができるよう、子育て応援事業への参加を案内している。

(18) モデル事業の実施にあたってお困りになっていることがありましたら記載してください。

(自由記述)

◆体制面について

- ・一時保育とこども誰でも通園の合同のクラスを設けたいと思うが、職員確保が大変難しい。人件費に要する十分な支援をお願いしたい。
- ・こども誰でも通園制度、単体の事業だけでなく、「こども」を中心とした時間帯によってさまざまな交流ができる子どもたちの拠り所を、予算の垣根を超えて作っていただきたい。

◆食事面について

- ・食事の進め方や意識の違いにより、保護者からの聞き取りに時間を要する。
- ・事前面接や給食の職員との連携など負担もある。ただし、給食も利用したいという保護者の意向は強く、必要性を感じる。

◆予約について

- ・保護者がリアルタイムで空きの状況が分かるようなシステムがあればとても助かる。また、利用料も手渡しのためそのシステム内で支払いができれば、お互いにとって利便性が向上する。
- ・緊急性が低いためか予約の取得・キャンセルが容易にされ、前日キャンセルの連絡が多い。

◆保護者対応について

- ・慣れない子どもの対応に、保育士が付きっきりになることがあり、保護者とゆっくり話す機会を持ってない。